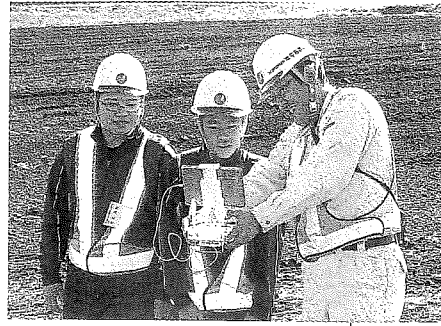


平田建設が職場体験学習に協力

業界目指すきっかけに

中学生2人を受け入れ



ドローンの操作方法を学ぶ生徒たち

学校の職場体験学習に協力した。町内で施工する2現場の状況を間近で見学したほか、同社職員サポートのもと、測量機器やドローンの操作も体験。生徒たちは、地域の安全・安心を守る建設業の役割について理解を深めるとともに、今後の進路選択に向けて具体的なイメージを膨らませていた。

職場体験学習は、働くことの意義や大切さを学ぶとともに、社会人としてのマナーを身に付けさせることがねらい。同社では、建設業界ならびに土幌町での就職希望者を増やすきっかけになればと、学校側からの依頼を快く引き受けた。今回受け入れたのは、2年生の男子生徒2人。はじめに本社で会社説明等を行ったあと、十勝総合振興局発注の「畑地帯（育成）西上第2地区61工区」、町発注の「土幌終末処理場建設工事第1期（土木・建築）」の現場を見学した。うち、西上第2地区では、現場代理人の松崎光春工務課長が、暗渠排水工の目的や施工手順などを説明

したほか、測量機器やドローンの操作体験、重機への試乗も実施。参加した生徒は「普段できない貴重な経験ができたし、大きな重機を操作できて、すごいと思った」と話した。

木幡彰夫専務は「ものづくりの喜びを理解し、その魅力を周りにも伝えてもらいたい」とした上で、「人手不足が課題となっているので、今回の職場体験が業界を志すきっかけにもなれば」と期待を寄せた。